

# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2190回★★ 鈴鹿山脈 雨乞岳	10月3日(土) 7:00 壬生集合	山元 誠一 (内583)	壬生-(名神)-竜王IC -鈴鹿スカイライン-武平 峠-雨乞岳往復-武平峠- (往路帰路)
マイカー山行です。参加希望者は担当までご連絡ください。 前回は雨風のため途中で引き返したので、今回は頂上を目指したいと思います。			
第2191回★ 国見山(笠置町)と 北山(加茂町)	10月15日(木) 7:00 醍醐駅	三橋 勉 (自宅581-3562)	醍醐-24号線-木津-163 号線-上田市…国見山-奥 畑-北山
マイカーで行きます。参加希望者は担当者まで。雨天の場合は翌日決行します。			
第2192回★★ 四国 剣山と三嶺	10月31日(土) ~11月1日(日)	山元 誠一 (内583)	費用 2万円程度(参加人 数により変わります) 装備 テント泊の装備一式
マイカーで行きます。事前に担当者に必ず申し込んで下さい。 10/31 京都-京都南IC-明石大橋-鳴門大橋-徳島-徳島自動車道-美馬IC-貞光- 剣山ドライブウェイ-見の越…△剣山…見の越-名頃(テント泊) 11/1 名頃-三嶺林道(終点)…△三嶺…三嶺林道(終点)-名頃-祖谷温泉-阿波池田 -美馬IC(往路帰路)			
第2193回★ 京都府下182座完登 権現山Ⅱ△526.7m	11月7日(土) 8:00 壬生	大槻 雅弘 (内770)	
坂井久光氏が提唱されて久しい京都府内500m以上の三角点の182座完登を目指してきたのが やっとこの権現山で終わります。京交の坂井氏がリストを作られたのが、今までは他の山岳会か ら本を出版されるようになり、京交以外かくれたファンもあります。私の知る限り5人の完登者 がいます。 ご同行願える方、担当者まで連絡して下さい。			
<b>今月の集会</b>		<b>企画運営委員会</b>	
日時	10月9日(金) 18:30	日時	10月20日(火) 18:30
場所	厚生会館 4F 大教室	場所	厚生会館 4F 大教室



8月末に塩見岳に登り、南アルプスの大観を満喫できたが、それ以来、残暑が続いている。今年の夏は東北・北陸地方の梅雨明けがないまま過ぎてしまったが、今頃になって遅れた夏を取り戻すかのように、じりじりとむし暑い日が続いている。しかし心配されたイネの発育にとっては貴重な暑さであるので文句はいえない。

今年の夏は関東以北では本当に多くの雨が降ったが、お隣の中国（China）でも大雨で長江が氾濫を起こしている。44年ぶりという。古来より長江を制する者は天下を取ると言われてきたが、近代中国も天変地異に悩まされているようである。大河だけに被害も桁違いに大きい。

9月15日は敬老の日である。日本は高齢化が進み、平均寿命は世界一であり、既に6人に1人が65歳以上のいわゆる高齢者ということである。一昔前は60歳が還暦といわれ、老人の仲間入りと考えられた。赤いチャンチャンコを着せられて祝福されたものである。山岳部でも55歳定年の時代は、OB部員が60歳になると還暦登山をして、チャンチャンコならぬ赤いベストを贈って祝った。60歳定年となった今は、退職記念登山が還暦登山と重なってしまったが、赤いベストを贈る習慣はなくなった。60歳で老人と思われることに皆さん拒否反応を起こすのである。

日本は出生率が低下し、老人が増え続けているが、世界的に見れば人口の爆発が続いている。毎年8,000万人が生まれ、来年には60億人に達するといわれる。このままでいけば一体地球の人口は何億人になるのか、増加する人口を養うだけの食料は確保できるのであろうか。ネズミやイナゴならば自然の摂理が働いて、自然淘汰されるのであろうが、人類はそうはいかない。隣人の飢えを見過ごすわけにいかないのである。人口問題の将来は、いかに出生を抑制するかという人類の叡知にかかっているのである。

来年は山岳部の50周年であるが、記念行事のひとつである記念誌が大槻・山元両氏の尽力でかなり進んできた。また初の海外登山の参加希望者も10名を超え楽しく登れそうである。

(H.10.9.15. 記. S.I.)

【第2180回例会】

第37回全日本登山体育大会，北海道大雪山，黒岳，北海岳，  
小泉岳，緑岳，高原温泉縦走と斜里岳（1,547m），雌阿寒岳（1,499m），  
阿寒富士（一等三角点 1,476.3m），富良野の旅

大 倉 寛治郎

北海道を訪れるのは十二支羊の山「後方羊蹄山」以来7年振りである。毎年参加している全日本登山体育大会が北海道大雪山山系にて開催されることになり，近くて遠い地へ訪れることになる。全国から517名，京都府からは8名が3つのコースに分かれ参加した。

7月10日（金）大阪伊丹空港を8時35分発JAS機で離陸機上の人となる。フライトは順調よく行ったが，離着時の時間待ちで16分遅れで10時36分新千歳空港へ着陸した。遅れた影響で直通で行く列車には乗れず札幌発13時発のスーパーホワイトアロー9号で旭川で乗り換え14時53分上川駅へ着く。途中小雨が降ったが傘を差すほどでもなく上川町の大会会場へ徒歩10分着く。開会式で「オリエンテーション，班編成，アトラクション，歓迎レセプション」を受け，明日の登山の健闘と天候回復を願い，計画輸送で宿舎層雲閣グランドホテルへと移動する。宅急便でザックは既にホテルに届いており明日の登山準備をして早々に床に着く。

7月11日（土）午前3時30分起床し4時30分集合場所層雲峡バスターミナルへ移動する。各班毎に集合して点呼，準備された朝食と昼食を受け取りロープウェイ乗り場へ各隊移動する。私たちの班は（Cの総勢は124名で）2隊の2である。19名の班長さんのなかでC-2隊は相沢清子さん（恵庭山岳会の方）である。班ごとに点呼を受けロープウェイ，リフトと乗り継ぎ七合目の黒岳登山口に到着し班毎に出発する。登り始めると小雨も上がり日が照りだし，着ていた雨具も必要なくなり脱ぐ。今年は暖冬の影響で早く花が咲き雪渓もふだんよりも少ないと関係者は話していた。しまリスや花に気をとられながらのノンビりの山行は気分的に楽である。黒岳には7時52分に着く，少し下の黒岳避難小屋で小休止，沢を2カ所渡り万年雪の北海沢の雪原の横を通り尾根へ取り付く。小さなピークをすぎ北海岳山頂へ，休憩後小泉岳へ向かう。天候がしだいに悪くなりだし，北海平で雨具を着ける。銀泉台からの隊とすれ違う。小泉岳の分岐では気温11度。横風が強く草原で遮る物はなくひたすら我慢するしかない。緑岳の少し下がった岩の陰で小休止をする。岩尾根を下ると樹林帯へは入る風も無くなり，その代わり登山道は雨で川となり，又ぬかるみ，足元も悪くなりだし登山靴の中もどろ水が染み込みグチャグチャになりながら何とか大雪高原温泉へのゴールへ15時18分に着いた。計画輸送のバスが予定より約50分程遅れ，雨の中寒さをこらえ待ち16時57分に宿舎へ着き大会登山を終わる。温泉につかり冷えた体と心身の疲れを十分に取り，夕食と嗜好品を十分に戴き床に入る。

7月12日(日)昨日の山行で疲れたのかよく眠れた、午前6時過ぎに起き朝風呂に入り心身ともにスッキリして、バイク方式の朝食を取り本日帰られる望月さんと旭川駅までバスでごいっしょする。又、長谷川さんは有志の方たちと旭岳と、温泉で一泊して帰られるという事。午前7時45分発のバスはほぼ満員発車した。旭川駅前別れ予約しておいた(ワンBOX 8人乗り三菱スペースギア)をニッポンレンタカーで借り、皆が待っているホテルへ。国道39号を今度は運転をして11時10分ホテルに着く。荷物を積み従業員の見送りを受け斜里町へ向かう。39号線を石北峠を越え“道の駅おんねん”にて昼食をとる。どこまでも続く長い直線の道路、パッチワークの畑とよく似た風景、行き交う車両の合間にバイクやサイクリングでツーリングしている人たちとすれ違う。北見市、美幌町、女満別町、網走湖を左に見ながら走る。

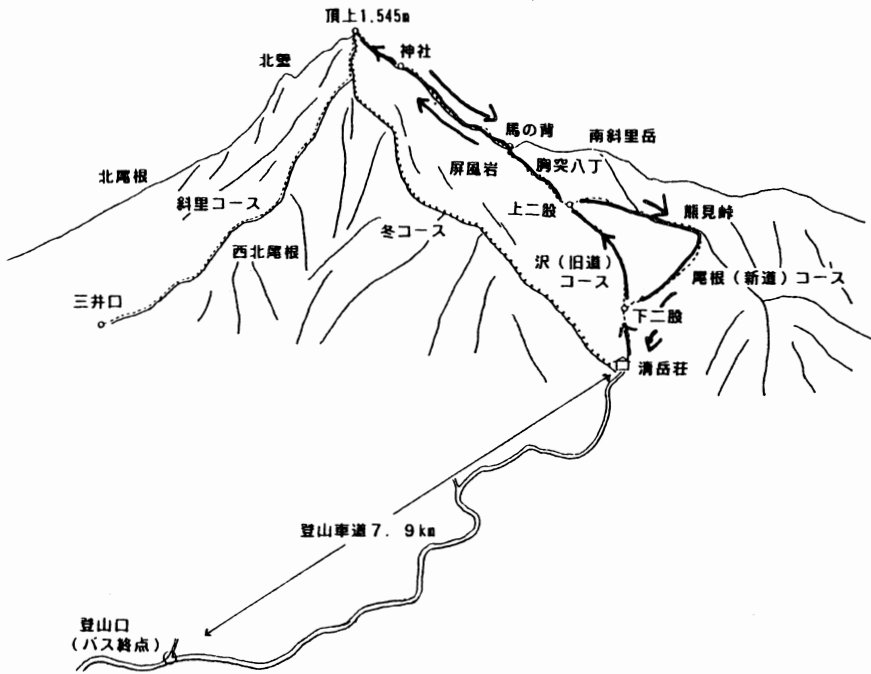
網走の刑務所の正面を見学、244号線を斜里へ向かう屯田兵上陸の所を通り網元カニの販売所で土産を購入。西町にある山本旅館へ16時45分に着いた。広い部屋を2室用意して戴き少し肌寒く暖房を入れ昨日の雨で濡れた雨具、靴、衣類等を、ついでに乾かす。伺っていたが大変ボリュームのある料理でケガニもでた。温泉も熱めで24時間入れる。本日の走行距離は263kmでした。

7月13日(月)曇り、昼食弁当を受け取り7時15分山本旅館を出発する。清里で国道と別れ江南へ右に曲がるとバスの終点へ着く。清岳荘へ7.9km標識があり林道へは入る。途中でタクシーと離合する。林道は思ったほど荒れてなく楽に走行でき清岳荘へ着く。既に駐車場は一杯で端の方に止め、少し小雨が降っているが登山の支度、登山届けに記入して出発。登りは谷コース一の沢に行く、二三日前に降った雨で水量もかなりあり渡渉に苦勞する。数回の渡渉を繰り返して下二股に着く、次の新道との合流間にて案内図によると名のある滝が七つある。水量がありかなりの迫力があり少々沢登りのまねごとが出来た。又、足場の悪いところにはロープや鎖がありそれほど心配することはない。霊華の滝を過ぎると沢の水も岩の下に隠れ石ころの道となり新道上二股と合流する。雨も止み太陽が照りだし気温も上がり蒸し暑くなる。急な涸れ沢を詰めると馬の背鞍部へ着く。視界も開けめざす斜里岳もすぐ前に望める。休憩をしているとマイクロバス二台で来た中高年の団体に出会う、20分で山頂へ登れると教えてくれた。急なガレ場を登ると祠がある、さらに登ると日本百名山斜里岳の頂に立つことが出来た。360度の大展望を期待していたが雲海が多く一部であるが羅臼岳、大雪山系が望めた。風が強く吹き早々に下山する。帰路は新道尾根コースを行く。展望も良く快適な道で熊見峠へ、ここから急な下りで途中から道も泥濘み下がるにつれ天候も薄曇りとなる四苦八苦しながら下二股へ着く。数回の渡渉を繰り返して小屋に着く。泥で汚れた靴、雨具等を川で洗い下山届けに時間を記入して本日の登山は8時30分スタート16時22分で終える。

小清水町で燃料を補給後野上峠、弟子屈町、雄阿寒岳を望み国道241号から240号を阿寒町にある宿舎サイクリングターミナル「赤いベレー」へ19時08分に着き二日間お世話になる。

7月14日(火)天気晴れ、8時16分宿舎を出発。一路240号を阿寒湖へ241号足寄峠を越え左折雌阿寒温泉、オンネット湖畔を通り、新しく出来た青年の家の広場にある登山口横に駐車する。ガイドブックによると、登りはじめから急勾配で、土砂が流され丸太だけが取り残された「用をなさない階段」が続くとあり、先が思いやられるがすぐに平坦な針葉樹林中の道となる。やはり

用をなさない階段でした。登る目安として一合目、二合目と書いた案内標識が取り付けられてあり大いに助かる。谷を渡り涸沢に沿って登山道はあり変化にとび木の根が階段のように続いている。ハクサンシャクナゲ、ゴゼンタチバナ、チョウカイフスマ、イワブクロ、メアカンキンバイ、メアカンフスマ等の植物を見て樹林帯を抜けると展望も開け、正面には阿寒富士が見えてくる。振り返るとグリーン色のオンネ湖が望め、ハエマツの間にコマクサが咲いていた。植物もなくなり、ゴロゴロした斜面を行くと分岐へ、左に取ると白い煙を上げた火口が見えてくる。火口付近からは硫黄の匂いがする、火口の壁に沿って登って行くと神秘的な青沼と赤沼を見ることが出来た。四方望めると雌阿寒岳頂上と書いたプレートと展望盤のある山頂についた。剣ヶ峰の方は硫黄の焼けた山肌が望めた、阿寒富士は火口から出る水蒸気雲で見えかくれしていた。霧がかかり遠く間での遠望は望めなかった。分岐まで戻り阿寒富士一等三角点に登り往路下山、オンネ湖の展望台より先程登った山を写し、阿寒湖周辺を観光して宿へ戻り予定していた山行を終える。



7月15日(水) 富良野へ移動する途中に釧路にある和商市場へ立ち寄り買い物をして、38号を一路富良野へ。北の国からのロケ地“麓郷の森”とふらのワイン工場を見学、ペンション、フラヌイで泊まり7月16日(木) 新千歳へ移動、サッポロビール工場を見学して、レンタカーを空港営業所へ返却する。空港へ送迎してもらい14時35分JAS 666便で大阪伊丹空港へ16時30分に着き7日間の旅を終える。

雌阿寒岳「アイヌ語のマチネシリは[女の山]の意で雄阿寒のピンネシリ[男の山]に対する。千島火山帯に属する阿寒カルデラ生成後に外輪山上に噴出した二重式火山。雌山[マチネシリ]、中雌岳[中マチネシリ]、小雌山[ボンマチネシリ]、阿寒富士かになる。主峰は小雌山で、二重

の爆裂火口がある。長径400mの噴火口の底に赤沼、青沼がある。山麓一帯はエゾマツ、トドマツの原生林で雌阿寒オネトウ自然休養林に指定され阿寒国立公園に属する。」

斜里岳「千島火山帯に属する円錐状の長い裾野をもつ美しい火山。地元ではオネヌプリ（大きな山）と呼ばれ、斜里コンタの人々に敬われていた。放射状の谷が発達し、山麓は原生林で覆われている。」

案内図によると、アルピニストのメッカ（斜里岳）阿寒、網走両公園と根釧原野を眼下に、知床連峰より国後島を一望に収める名峰斜里岳は、その山容端正にして千島火山脈に属する休火山である。先住民族（アイヌ）がカムイ（神）の如く神聖であり、その名も（オネヌプリ）[大山の意]として称している。

コンサイス日本山名辞典、斜里岳案内図、北海道夏山ガイドより引用しました。

【参加者】 森本清一、婦人、原田加津子、津田照子、大倉寛治郎、婦人

【第2186回例会】

## 南アルプス 塩見山

清水康裕

8月21日 21:30 壬生集合で22日の1:00に松川ICに着く。井戸部長が着いて来いとばかりに強気に烏倉林道とは反対方向に車を先導するので、後続の6人が大丈夫かと不安になったが、松川温泉村のきれいな駐車場に着いた。テント内に寝る人や車内寝る人がいたが、松浦君と私は外でシュラフの中に入って横になった。京都では普段見られない綺麗な星々が空にあったが、私の知識ではカシオペア座しかわからなかった。5:30に起床しハンバーグ弁当を食べたあと、8:30烏倉林道駐車場に着く。山側の岩盤が非常に風化して崩れがひどく、そのため車両通行止めにしてある林道区間を30分間歩くと登山口に辿り着く。そこから2時間45分間ゆっくりと登るとポポンポンと音がしてきて、三伏峠小屋に近づいていると感じた。日本で一番高い峠が三伏峠であると書かれていた。そこで昼食をとったあと烏帽子岳へ登った。引き続いて先へ進むかどうか議論を呼んだが、とりあえずビールで乾杯した。前小河内岳なら往復する時間の余裕があったので、スタミナの残っている森本さん、方山さん、松浦君と私が前小河内岳へ向かった。ビールがまわって頭が痛かった。前小河内岳山頂に昔の難しい字で「御稜司三角点」と書いてあるようなコンクリート杭が折れていた。三伏峠に戻り、看板の前でビールとコーヒーを飲んだ後、三伏峠

小屋で夕食のカレーライスを食べた。最初からお代りができないとわかっていたらもっと味わって食べたのに。

8月23日 出発前、まだ外が暗いうちに空を見ると、前日より綺麗な星が多くきらめいていた。知っているオリオン座が出てたので嬉しかった。5:05に三伏峠小屋を出発したあとしばらくして、御来光を拝めた。ちょうど顔出す位置に雲があったので、円い輪郭がはっきり見えた。そして1時間下り登りすると本谷山に立っていた。標高2,658mを確認すると三伏峠小屋より43mしか高くないと分かりがっかりした。それから塩見岳への長い道中、いつも三伏峠小屋を振り返り現在位置との高低を気にしながら登った。沿道になぜかトリカブトが多く生えていた。岩場ができたので、前に聞いた話からすると頂上がもうすぐだと分かった。ガスの間からかろうじて顔を出している山の中から、仙丈岳と間ノ岳を森本さんに教えてもらった。塩見岳へ着くと、久しぶりに3,000mを越えたという実感が湧いてきた。同時に道中を思い出して、南アルプスでは北アルプスよりも植物が頑張っているのだと思った。

山を下りた後、最初に泊まった松川温泉へ戻った。泊まった晩は暗くてよく分からなかったが、村自慢の総合娯楽施設であった。温泉に入り食事もしてゆっくりさせてもらった後、帰途についた。

【参加者】 森本清一、岡田茂久、三橋 勉、方山宗子、井戸澄夫、竹田 勉、松浦健一、清水康裕

#### 【コースタイム】

8/21 壬生 (21:30) - 京都東 I C (20:00)

8/22 松川 I C (1:00) - 松川温泉村駐車場、テント泊 (1:10) ... 起床、朝食 (5:30) - 出発 (6:30) - 烏倉林道駐車場 (8:05~8:30) ... 林道終点登山口 (9:00~9:05) ... 豊口山分岐点 (13:00~13:30) ... 前小河内岳 (14:00~14:10) ... 烏帽子岳 (14:00) ... 三伏峠小屋 (15:15)

8/23 三伏峠小屋 (5:05) ... 本谷山 3等△2,658m (6:10~6:25) ... 塩見小屋 (7:55~8:10) ... 天狗岩 (8:40) ... 塩見岳 2等△3,046.9m (9:10~9:50) ... 塩見小屋 (10:35~10:50) ... 本谷山 (12:20~12:35) ... 三伏山 (13:20~13:35) ... 三伏峠小屋 (13:45~14:10) ... 林道終点登山口 (15:50) ... 烏倉林道駐車場 (16:20~16:30) - 松川温泉村、入浴 (17:40~19:40) - 多賀 S A (22:00) - 壬生 (23:30)

【第2187回例会】

## 白山二ノ峰

梅津 吉田 武

毎年1回は沢登り例会を行って来た。今年で12年目になった。

1986年に岡本君、大槻さんと僕の3名で笛吹川東沢を遡行、1987年に巻機山の割引沢と谷川岳一ノ倉へのバリエーションルート、1988年には会津駒ヶ岳と平ヶ岳沢を遡行、1990年には平標山の笹穴沢と遡行、1991年には天候の都合で沢登りをやめて中国山地、十種ヶ峰と吉和冠山、1992年には越後駒ヶ岳と守門岳を登り、1993年には尾瀬ヶ原のセンノ沢と白砂山、1996年には奥鬼怒の黒岩山を中ノ岐沢から北岐沢を登ってブッシュの中三角点まで登っている。1997年には丹沢山のキュウハ沢を登っている。その中でも三県境の山として、笛吹川を登った時の甲武信岳や北岐沢を遡行した時の黒岩山とパラティエーに富んだ山行を行って来た。

今年は以前登った割引沢の東側にある沢で来子沢に行こうときめた。しかし参加者の日程が少しだけ合わないので1日短縮して28日と29日の1泊2日で行ける山と言うことで白山二ノ峰と三ノ峰の間にあるカサバノ谷に行くことにきめた。

折しも天候不順で関東、東北地方は大洪水で多くの人被害を受けている悪い気候である。白山周辺も同じような天気であろうと思ながら京都を出る。

田村君の十八番、打波川の上小池野営場にて宿泊する。道中雨が降ったりやんだり明日の沢登りが心配だ。

29日、生憎天気は悪く気温も低いので沢登りをやめて上小池より二ノ峰に登ることにした。上小池野営場より打波川に沿って1.5km位林道を歩くと白山登山道の看板が左側にあった。願教寺山を右に見ながら少しずつ高度をかせぐ。以前に六本松まで登った時は残雪があって直登したが今日は夏草の茂るルートを歩く。六本松まで標高差480mを1時間半位で六本松につく。風通しは良いが眺望はあまり良くなく正面に願教寺山とよも太郎山が見えている程度である。天気がよかったら快適な尾根歩きであるだろうと思った。時々三ノ峰のピークが顔を見せている。

剣ヶ岩の左側を越えてピークを廻り込むと三ノ峰の避難小屋についた。石川県と岐阜県そして福井県の三県境である。小休止して二ノ峰に向かうピークを少し廻り込んで稜線を渡り返した左側のピークが二ノ峰の三角点になっている。縦走路には看板があったが三角点はすごい藪の中であろうと思いやブをこぐ。三角点を通り越してもわからない位のブッシュの中で・・・あった、あったと声が出た。よくぞ見つけたものだ写真を写して早々にブッシュから逃げ出した。三ノ峰避難小屋までもどって昼食をして往路を下山した。

【参加者】 岡本義弘、大槻雅弘、森本清一、吉田 武



【個人山行】

## 北海道の山旅

### 利尻山，羊蹄山，ニセコアンヌプリ

鷺見 敏 一

新年会で新年の抱負として一昨年から言い続けた利尻山を計画し、もし好天に恵まれれば羊蹄山とニセコアンヌプリも登りたいと欲張った計画をした。

7月17日（金）晴

関西空港から稚内空港へ飛び、稚内港からのフェリーで洋上に映える名峰「利尻富士」を眺め明日の挑戦に胸を膨らませ鴛泊港につく。予約していたレンタカーをチャーターして、明日の行動食や食糧を買いととのえ、利尻温泉が出来たと聞いていたので、登山口への下見をかね行って見ることにする。鴛泊ルートを利用神社への道を左に見て、しばらく走ると右側に利尻富士温泉（利尻富士町温泉保養施設）がある。ここから5分位行くと登山口のキャンプ場である。ついでに温泉につかりビール、ウニ丼で舌鼓をうつ。

利尻での宿ペンション「コテイジ利富」（自炊）の窓からは利尻富士が陰しく聳え、右の裾野は沓形に伸びるゆるやかなスロープを描き左には長官山の肩、ポン山などの山の重なりが見える。明日は早立ちのため早々に就寝。

7月18日（土）晴

3時20分起床し装備を整え4時10分に出発する。利尻島の日の出は早く、登山口へ向かう車窓から水平線を昇る明日を見ることが出来た。キャンプ場に車を駐車し登山届けをして早々に出発する。ゆるやかな林道を10分ばかり登ると3合目の甘露泉（湧水）にたどり着く。ここから登山道となり、ポン山への分岐を右に取るとすぐに小さな乙女橋がある。暗い感じのするトド松等の針葉樹林に覆われた道を登ると、5合目辺りから丈の低いダケカンバの姿が目立ち始め単調な登りが続くが高山植物の可憐な花も目立ちはじめ心を慰めてくれる。

6合目から8合目まで急な登りが続き、小休止をとりながらやっと8合目（長官山）に着く。ここにあった避難小屋は平成6年に少し上に移動したとか、小屋跡の敷石だけが残っていた。ここからは見晴らしも良く尾根沿いの登りになりハイマツが目立ち高山植物も豊富になって来た。ピークを一つ越えゆるやかに下った鞍部に小屋は移動していた。左斜面はお花畑、右側は急峻な崖になっており、特に9合目付近からの崩壊が激しくガレ場や溝状にえぐられた道が多く所々ザ

イルでフィックスされ、地元の方がコース整備のために出勤されていた。

9合目を過ぎ杓形コースとの分岐を右に分けて一息に山頂を目指して急登する。山頂（1,718.7m）の祠周辺では先着パーティーの記念撮影等にぎわっていた。色とりどりの高山植物もさることながら視界を遮る何物もない展望に感激しながらゆっくり昼食とティータイムを楽しむ往路を下山する。

8合目長官山の一等三角点（1,218.3m）の標石は登山道から少し外れた山の肩にあり、この周辺登山者の排泄場になっており誠に残念である。最後の展望を楽しみここから一気に下山する。途中エゾリスがちょろちょろと別れを惜しんでくれて感激。3合の甘露泉で喉を潤し、利尻富士温泉で汗を流し一休みした後、ベシ岬（93.15m）に登り利尻山の勇姿に感嘆し、夜は土産屋のおばちゃんに聞いたとっておきの店で特製のウニ丼でカンパイした。

#### 7月19日（日）晴（移動日）

鴛泊港からフェリーで礼文島の香深港へ渡り2時間を有効に桃岩（一等三角点 249.52 m）を往復する。桃岩は山頂の手前で崖崩れ補修中のため通行禁止柵があり、山頂までは行けなかったがすばらしい眺望と高山植物の宝庫に満足したものの例年より開花が早く終わりを告げる花も多かった。

香深港から稚内港へ移動、稚内ではレンタカーをチャーターして「日本最北端の地」宗谷岬を観光する。霧のため視界が悪かったが一瞬の霧の切れ間にサハリンを望むことが出来た。引き返してノサップ岬を観光のため車を走らす。平成9年6月にオープンした稚内温泉「童夢」に入浴し汗を流す。浴槽から日本海に浮かぶ利尻、礼文の島影、水平線に沈む真っ赤な夕日などパノラマの雄大な自然を満喫した後、稚内で夕食をとり22時13分発JR利尻に乗車した。（車中泊）

#### 7月20日（月）晴

札幌と小樽で乗り継ぎニセコ駅で下車。レンタカーを借り羊蹄山の真狩コースの登山口へと車を走らせる。自然公園入口からキャンプ場奥の登山口に車を駐車する。既に日は高く早や10時50分である。登山口で登山届けをすませ出発する。トド松の林を抜けゆるやかに登って行くと、次第に針葉樹が姿を消しダケカンバが目立ち始める。3合目で小休止、4合目からジグザグの急登となり喘ぎ喘ぎ5合目に着き昼食にする。ダケカンバの樹高が低くなり枝で登山道を邪魔されながら登ると、右手に涸れ谷が見え、ハイマツが現れて来た。

8合目で視界が急に開け、明るい岩の斜面を左へ横切って行く、イワギキョウやイワブクロが真っ盛りで風に揺れているのが愛らしい。9合目はハイマツの中で左へ避難小屋への分岐である。右の登山道を取りしばらく登ると頂上稜線の鞍部に出た。稜線は展望が広がり眼下に大火口があり、カール状の地形でお花畑になっていて可憐な花が迎えてくれる。火口壁の縁を180度以上時計回りに進んだ所が羊蹄山（蝦夷富士）（1,893.0m）の山頂だった。展望を楽しんだのち往路を下山する。昆布温泉の宿「ホテルレイトン」で羊蹄山登頂を祝しカンパイする。

7月21日(火)晴

6時にホテルをチェックアウトして標高(750m)の「ニセコ山の家」まで車で行き、山の家  
のそばのキャンプ場に車を駐車する。登山口から整備されたダケカンバの広い道を10分程登  
ると昆布温泉からの道が合流し、傾斜はだんだんきつくなるが、道は山腹にジグザグにつけられて  
いて歩きやすい。笹の丈が低くなり920mのコブに遭難碑があり大きなケルンが積まれていた。  
歩き始めて1時間、見晴らしの良い所で朝食をとる。ここからは岩石のゴロゴロした急坂となり  
大きくジグザグに登る。高山植物も多く、エゾカンゾウが斜面一面に咲いていた。急斜面を登り  
切って、すぐその先がニセコアンヌプリ(1,308.5m)のアンテナの建つ山頂だ。展望抜群のは  
ずが山腹にガスがかかり昨日の蝦夷富士も山頂は雲の上に浮いていた。往路を下山しニセコ山  
の家で入浴、小樽まで車を走らせ名物の寿司通りでお寿司を賞味し、エアポートで千歳空港～伊丹  
空港～帰路した。

今回の山行は好天に恵まれ、コース、タイム共に計画通りに運び、全員無事完登できて良かった。

【参加者】 鷺見敏一、鷺見壽末子 他2名

#### 【コースタイム】

7月17日 関西空港 11:25 → 稚内空港 ～ フェリー → 利尻鴛泊港 17:10

7月18日 出発 4:10 キャンプ場駐車 4:25 … 甘露泉 4:35 … 5合目 5:25 … 7合目 6:15 … 8合  
目長官山  $\Delta$ 1,218.3m 7:30 … 9合目 8:15 … 利尻山山頂  $\Delta$ 1,718.7m 9:35 ～  
昼食 10:50 … 沓形分岐 11:02 … 8合目 12:12 ～ 12:40 … 登山口 14:30 → 利尻富士  
温泉

7月19日 利尻鴛泊港 10:05 → 香深港(礼文) 10:45 … 桃岩 … 香深港 13:05 → 稚内港 15:00  
→ 宗谷岬 → ノサップ岬 → JR稚内(利尻) 22:13 → 車中泊

7月20日 札幌 6:00 → 小樽 7:00 ～ 8:09 → ニセコ 9:50 → 登山口 10:50 … 5合目 12:26 昼食 …  
7合目 13:40 … 9合目 14:21 … 羊蹄山山頂  $\Delta$ 1,893.0m 15:30 … 7合目 16:50 … 5  
合目 17:30 … 登山口 18:30 → 昆布温泉ホテルレイトン

7月21日 ホテル 6:00 → 「ニセコ山の家」登山口 6:25 … 7:25 朝食 7:40 … ニセコアンヌプリ  
山頂  $\Delta$ 1,308.5m 8:07 … ニセコ山の家 9:20 → 小樽 16:00 → 千歳空港 20:15 → 伊丹  
空港 20:15

## 【個人山行】

# 梅雨明けぬ東北の山旅

坂井久光

7/27 金沢市へ墓参に行き、近江町で小学校の親友忠村水産K.K.社長を訪問し深谷温泉石屋旅館に行き伯母夫妻や従弟夫妻に会い一泊。

28日金沢東ICで稲垣（念仏寺住職）の車に乗り糸魚川駅で山崎大造氏一行と合流。その後国道を北上、上越から柏崎の手前の海岸で山崎さんは水泳や潜りで遊び、その夜は観音崎の展望公園で幕営。29日更に北上加茂から村松町に行き木六山三等三角点へ向かったが、雨と蛙の為撤退し、花咲温泉のセンターで入浴、菅名山麓の登山口で幕営。30日菅名山二等三角点909mに雨中登頂。鳴沢峰四等三角点を経て下山。その後五頭山麓の温泉で入浴後スキー場跡で幕営。31日五頭山913m三等三角点へ。S50.5.3に登頂し松平山へ縦走した思い出の山で十二支会の光免山の前日であった。ここから菱ヶ岳974m二等三角点へ縦走したが、途中雨となり幾つもピークを登り最後は茂みをかきわけ登頂。少時休んでスキー場跡へ下山する道が豪雨で川となり滝となって流れ苦労するもやっと晴れて、ほうほうの呈でスキー場跡へ、干し物もずぶ濡れで元の木阿弥となった。新発田駅へ行き作野さんと会い一行5人となり、その夜は荒川温泉奥の大石ダム公園で幕営。

8/1 ダムから東俣林道を入ったが途中通行止でバックしてダムから大熊小屋へ西俣川沿いの嶮路を9:00～15:00、6時間かかって到着。途中渡渉点が判らずルート発見に手間どった。小屋はすいていたが茸取の82歳の老人と新潟の登山者グループ位で、湧水は冷たく甘かった。

8/2 5:00出発林営山二等三角点へ向かったが豪雨の為中止し、下山9:15～30出発下山。途中小谷の滝が増水し大滝と変わりすぐ下の滝へ物凄い勢いで落下。ザイルを出して稲垣さんが先に渡り次いで私が次々渡渉成功。途中の急崖も増水や崖崩の危険があり、下山後大雨洪水警報が発令されていた。大石ダムに14:30下山し、関川村ゆゑ温泉で入浴後朝日村ふれあいセンターで山崎氏の友人の東京の医者グループと合宿。

8/3 笹川流で休養し東京組と別れ、雨の為温海温泉菊屋旅館で一泊。

8/4 浜中海岸で休養、その後山形の山寺駐車場で幕営。

8/5 天童高原に行き駐車。9:00三沢山四等三角点1,042m經由面白山1,264m二等三角点へ登り往路下山。山形市へ行き銭湯で入浴。夕食後花笠音頭見物。その夜は有屋キャンプ場奥の神室山登山口林道ゲートで幕営。2日に中川・稲垣組と別れ、4日作野・山崎・私の3人で神室山二等三角点1,365m(200名山)に登頂。山頂は一寸したお花畑だった。雨となり避難小屋で休憩後下山(登山口6:00～三角点10:00～11:00～登山口14:30)。その後湯沢市に出て食堂で

夕食後雨模様でろうといったが、雄物川堤防で幕営。雷雨豪雨となりテント浸水。車に逃込一夜を明かし、8/7秋田駅へ大前氏を迎えに走ったが、雄物川が氾濫し田畑が湖になった処もあり、駅で仁賀保駅から不通とのことで駅に行き大前氏と合流。八塩ダムへ行き、私と作野は濡着、シュラフ等を干す。山崎・大前両氏は八塩山(二等三角点千山)へ。その夜は秋田の料亭で夕食後竿灯祭を見物し、仁別キャンプ場に行き室小屋泊。

8/8 雨だったが大平山一等三角点1,171mへ、山頂小屋で昼食休憩11:40~13:00。下山後男鹿半島寒風山(千山)へ行き、湯浴ランド入浴後幕営。

8/9 北上して八森町から二ツ森二等三角点1,086mへ登り白神山地を展望。12:30下山後御所の台キャンプ場で幕営入浴。

8/10 十二湖を見物して白神山地の展望台天狗岳(二等三角点1,086m)へ登り、下山後青森県西目屋村菅美山温泉で入浴後キャンプ場で幕営。立命大のサイクリング一行と出合。

8/11 弘前市の子供の森キャンプ場から久渡山二等三角点663m(千山)へ。下山後青森から津軽街道を走り、大倉山へ山崎氏単独登山(私は2回登頂)、その後今別町浜名温泉で一泊。

8/12 増川岳三等三角点714m千山へ大前・山崎氏と私の3人で登り、作野さんは竜飛岬へ観光。昼食時は竜飛岬で会い、その夜は相馬町星と緑の森で夕食幕営。

8/13 林道を南下し峠を越し、秋田県の荒沢登山口へ9:30~田代岳(一等三角点1,178m)11:50~12:00。登山口14:30。下山後藤里町菅温泉保養所で一泊。

8/14 私は二ツ井町の畠山氏(本屋)を訪問、久潤の挨拶後四方山話に時を過ごし、彼は秋田アルパインクラブ員で海外登山もやり、本年A・B・C・T・Vで百名山の岩木山や白神岳を登り放映された。他の3人は私と清水栄一(故人)と数年前に登った藤里駒ヶ岳(158m二等三角点200名山千山)に登頂。二ツ井町で合流し鳥海山ふれあいの里で入浴後象湯町の「新はし」料亭で夕食。キャンプ場で15日2時頃仮眠。15:30京都東インター下車後四の宮三条で解散。

長い2週間の山旅を終わり疲労困憊で帰宅、以後療養に勉め、9月に入り漸く少しは恢復しようだ。

## 但馬の山々

坂井久光

9/6 太秦駅からJRで福知山8:38~9:06福知山線に乗り換えて石生駅9:35着、神姫バス関西墓園行9:59に乗り前島橋で下車。北へ国道に出て西へ旧道を通り山裾を通して大谷から清住へ。

ヒッチして片手矢口の林道分岐へ、11:08 ここから谷沿いの林道を登り鹿網のゲートのある分岐へ11:32。車はここ迄入れる。林道終点11:46~12:00。杉林の中を峠道を辿り、大名草への峠へ12:22~27。体力回復の試登山だったが暑い街道歩きより涼風の吹く山道の方が快適だった。尾根筋にも道や標識もあり急坂もあったが緩い無理せず登って12:55~13:05、カヤモチ山の木片のある二等三角点748mに登頂。東へは藪で西側は杉林で東側は雑木林で周辺が林で展望はなかったが、久しぶりの登頂で至福の一時を過ごして往路下山。清住に来た時農家の足立充司さんに呼び止められ「どこの山へ」と聞かれたので「カヤモチ山」と答えると「どの山」と聞かれ説明すると登ったことがない。「何方から来られた?」と聞かれ「京都から」と云うと吃驚して何故こんな山へと聞かれ「二等三角点があるので」と答えると益々吃驚して駅迄送ると云って車で石生駅迄送ってくれ、車中色々話し、彼は50歳を過ぎてから山好きとなり「富士山や兵庫の50山を友人と登ったりしている」とのこと再会を期して帰路。石生15:30~37、福知山16:04~17:00太秦18:50。

9/7 太秦7:44 発JRで福知山8:38~9:06、福知山線石生9:35。佐々木氏に電話して駅で再会、約束の本を渡したりして喫茶店で休んで車で安全山537m三等三角点へ。山頂近く迄車道が通じ、無線塔が2,3建っており、尾根道筋を登ると三角点へ。周囲が林で展望はなかった。下山後車で北上して青垣町東芦田へ。林道はついていたが、猪垣が麓にしてあり、下を潜って林道終点より踏跡を急登して稜線で登路に出て展望台の立つ三等三角点へ。登って展望を楽しみ登路を辿り林道に出て下山。山名は城の山とか山麓の胎藏寺の山号吼子尾山と云う。

寺の隣の国土さんを尋ね84歳の祖母さんが1人で住んでおり、現在無住職で、寺伝によると養老2年(1330年前)に法道仙人(天竺の人)が赤子の泣声がしたので此の山に登ったら、1寸8分の観音像が光って見付かり一字を建てたのが由緒で、昔此山に芦田氏が城を築き、その子孫が代議士の芦田さんで、彼女は親戚であり、付近は芦田姓が多いとか。又方便水は間時涸れぬ名水とか云ったが現在涸れて小祠があった。佐々木氏と麓で別れたので土産の新米一袋を持ってバス停迄歩いて運よく福知山の佐々木さんの車に出合い谷川駅へ。JRで尼崎經由帰路。

9/9 京都駅7:07、姫路9:33~10:03 播但線寺前乗換え生野の次の新井下車11:19~22、タクシーで岩屋観音へ11:32。参道を登り無住職の驚原寺へ。11:53~12:10 此所で昼食後行者山登路を登り上の本堂や籠堂から踏跡程度の急坂岩尾根を岩や木や根を頼りに攀登って尾根筋道に出て野猿の声を聞き乍ら行者山500mの分岐に出て右折、岩屋観音の谷道分岐を経て、松や杉の支尾根を右に見て南へ806.5m二等三角点へ。尾根筋は笹が枯れ広い道が続くが、支尾根が多くルートを探し乍ら杉林や雑木のピークを幾つも越えて山頂へ。途中銀山湖への標柱があったがそれ丈で櫓が珍しく残っていた。急な尾根を下り小谷を下ると林道に出て間もなく銀山湖へ。生野は昔生野銀山で栄えた町で後三菱鉱業が引き継いだが廃鉱となり、跡は三菱マテリアK.K.となったり博物館となっており、円山川の源流法道溪谷はダムとなり湖畔に保養センターや宝探しセンターが出来ており観光地化していた。三角点15:20~30、銀山湖魚ヶ淵センター16:45~55。バスを待っていたらセンターに勤める堀川秀忠さんが帰宅するから乗れとのことで生野へ。又話が聞きたいと自宅へ招待され一泊することになった。彼は信用金庫退職後此所に勤め息子は兵庫県

警の警部で祖先は平家とか、又漢文・漢詩が好きな65歳の元気な老人で暇があれば全国ドライブ旅行しているとか。私に何故山登りに来たかを聞かれたので山馬鹿人生を語ったら驚いて明日神子畑の山へ登ると云うと送ってあげるとのこと。風呂に入り夕食を御馳走になり就寝。

9/10 朝食後車で新井から神子畑川沿いの国道を走り三菱鉱山の選鉱場・精錬場の山の斜面に巨大な廃工場が建ち昔の繁栄の名残りを見せていた。笠杉トンネルの手前迄送って頂き厚く感謝してお別れした。杉林の急坂を登り国境稜線に出た。小路があり幾峰を越えコルに地藏があり右折点のピークに四等三角点があり、小さな無線塔のピークを始め三つ四つコブを越すと二等三角点974mに登頂。小広く周囲に杉や桧・檜・樺等の雑木で展望は樹間から北東面が展望出来る位で、11:20~40休んで南東の谷から工事の音が聞こえたので下ったが、杉林の踏跡を辿り山道に出て谷川を渡って国道へ。運よくヒッチ13:15して和田山14:05~35、福知山15:15~17:00、太秦17:05、帰洛。

今度の山旅で法道仙人の創立した山寺が多い(笠形山・五台山・雪山彦・妙高山等)を知りその探訪を試みる事にした。

## 例 会 報 告

例会 No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	備 考
2180	全日本登山大会	7月10日 ~16日		大倉寛治郎	森本 清一 原田加津子 他2名	(別稿詳報)
2186	南アルプス 塩見岳	8月21日 ~23日		井戸 澄夫	森本 清一, 岡田 茂久, 竹田 勉, 松浦 健一,	(別稿詳報) 方山 宗子, 三橋 勉, 清水 康裕
2187	白山 二ノ峰	8月28日 ~30日		吉田 武	岡本 義弘 大槻 雅弘 森本 清一	(別稿詳報)

## 部 員 動 静

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
北海道の山旅	7月17日 ～21日		鷲見 敏一 鷲見壽末子 他2名	(別稿詳報)
東北の山旅	7月27日 ～ 8月15日		坂井 久光	(別稿詳報)
木曾 御嶽山	8月26日 ～27日	曇り 雨	山元 誠一 他3名	昨年、乗鞍岳に登った時、目前に見えた御嶽山に是非登りたく、行ってきました。登りはガスの中、激しい風の中の登りでしたが、時折、青空も見えました。頂上のお池巡りをして、頂上小屋に戻り、休息していると、ガスが晴れ、夕焼けの中、乗鞍岳や、八ヶ岳が望めました。しかし、残念ながら、南アルプスは雲の中でした。翌日は、ご来光を期待していましたが、早朝から、残念ながら、激しい雨と風、雨の止み間をぬって、小屋を出発し、ほうほうの体で、田の原に下山しました。
但馬の山々	9月6日 ～10日		坂井 久光	(別稿詳報)



# 報 雑

## △△△ 9月の集会

日 時 9月11日(金) 18:30～  
場 所 厚生会館 4階 大教室  
参加者 (本局) 井戸, 大槻, 山元, 方山, 松浦 (竹田) 大倉  
(市役所) 竹田, 岡本(勇) (OB) 岡田, 坂井, 渡辺 以上11名  
内 容 例会報告他

## △△△ 8月の企画運営委員会

日 時 8月24日(月) 18:30～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 吉田, 大倉, 山元, 馬淵  
内 容 岳連報告, 例会報告他

## △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

9月号 一等三角点, 京都山岳, 北山, 熊笹だより, 木雞, 青嶺, 趣味の登山,  
京都山友

## △△△ 京交山岳部創部50周年「記念誌」原稿・写真募集について

平成10年4月号でお知らせしましたように、現在、「50周年記念誌」の作成に取り組んでいるところですが、部員の皆さんから次の内容で、原稿・写真を募集したいと思いますので、よろしく願います。

- 1 原稿の部 「京交と私」という内容で、京交山岳部と各部員の皆さんとの関わりほか、山に関する内容であれば、なんでも結構です。  
字数は、部報で1ページ程度(1200字程度)、写真等も併せて投稿して下さい。
- 2 写真の部 「思い出のスナップ」という内容で部員の皆さんが所有されている写真を募集します。  
アルバムの中にもありませんか。貴重な過去の山のスナップ写真は、山で出会った感動のシーンをお待ちしています。  
写真にまつわる話を一言添えて投稿して下さい。

締 切 平成10年12月末日  
記念誌担当の山元まで願います。

記念誌担当 大槻, 山元

△△△ 部費納入のお願い

平成10年度の部費の納入につきましては、7月号の部報でもお願いしていたところですが、まだ、納入していただいていない方は、至急各支部の会計委員の方に納入していただきますようよろしくお願いいたします。

OB部員の方につきましては、8月号の部報発送時に、郵便局から振込ができる用紙を送らせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

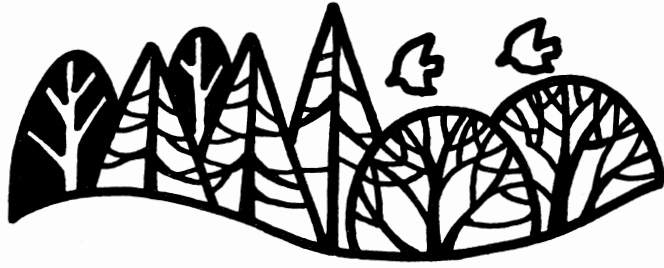
なお、部費は、6,000円です。OB部員の方で部報郵送の方は、郵送料共で7,500円です。

△△△ 「山岳遭難を無くする集い」

日 時 10月24日(土) 19:00～21:00  
会 場 京都テルサ東館3階(スポーツセンター大会議室)  
講 演 「安全に登山する為の体力作りについて」  
日常生活の中で出来るトレーニング etc  
講 師 山本正嘉 日立鹿屋体育大学(教育学博士)  
参 加 費 1,000円(資料代含む)  
主 催 京都府山岳連盟

△△△ 「秋の茸」観察会の開催について

期 日 10月25日(日) 7:20 京都バス・出町柳駅集合  
会 場 花背峠～大見尾根～百井キャンプ場～天ヶ岳～百井峠～百井岐  
参 加 費 2,500円(資料代, 保険料, バス代)  
参加申込 大杉自然保護委員長あて 往復はがきで 10月20日までに 先着50名  
〒606-8332 京都市左京区岡崎東天王町6 大杉 喬  
往復はがきで往信部に住所, 氏名, 年齢, 所属山岳会名, 電話番号を,  
返信宛て先には住所, 氏名を書いて下さい。保険を掛けますので全部書いて下さい。



家庭用品 } 総合卸商社  
衛生用品 }

## 日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地  
☎ 601-8121 電話 (075) 672-6101(代)  
FAX (075) 661-7332

## 八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4  
TEL (075) 571-1108

帆 布・濾 布  
テント・シート  
雨 合 羽

## 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)  
西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、  
注目のスポーツ  
カヌーをはじめ、  
ひと味違う充実の  
品揃えは必見のもの!!



株式会社 **ロッジ**  
**LODGE**

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)  
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

**京都で唯一の山の専門店**

**Now Outdoor sports**  
 ハイキング&キャンプ・クライミング  
 アウトドアウェア・US産出品  
 ポーリスカウト用品

**Mountain**

〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入  
 TEL 075(268)-0548  
 営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休  
 (株) スポーツ コニシ

葦あしの髄ずいから天井てんじょうを覗のぞく： ③

中・高年層の間で「日本百名山」が静かなブームを呼んでいるとテレビが報じていた。登山に限らず霊場めぐり、JR全線二万キロチャレンジ等、目標を設定して挑戦するのに異を唱えるつもりはないが、ややもすると数だけこなせばという風潮が見られるのは残念。

後に残るものが何もないのは惜しい。大昔に流行ったアメシヨンなる言葉を思い出した。

制作 株式会社 北斗プリント社  
 ○七五七九一一六二二五  
 (文責 波多野)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
 国土地理院空中写真(カラー・白黒)取扱店  
 通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
 各種地図製作並びに印刷  
 地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

**小林地図専門店**

**株式会社 小林地図専門店**

〒600-8150 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)  
 ☎(075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

**サンコークラフト**

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88  
 TEL (075) 771-3442

平成10年10月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

**京交山岳部**